

全港湾第 56 期中央労働講座報告

北海道地方留萌支部

五十嵐 和哉

6月12日から14日三日間にかけて第56期中央労働講座が行われました。今回の中央労働講座は書記長クラスの集まりとゆうことで、留萌支部の代表としてプレッシャーもあり、又初めての参加でしたのでとても不安でした。

初日は第一講座、鈴木誠一委員長による「全港湾の歴史」から始まりました。全港湾は1946年に結成され、戦後とともに全港湾は今年で80年とゆうことでなにか驚きを感じました。戦後、全港湾の先輩方が闘って築き上げてきたことを今の私達が継承しそして次の世代に継承していく、その流れが止まらぬよう次世代の人達にこの歴史を伝えながら全港湾をこれからも支えていきたいと改めて強く感じました。

二日目は第二講座、全国港湾の玉田書記長による「産別協定と事前協議制度」についての講義から始まりました。正直自分は産別協定と事前協議制度について全く知識がなかったので、玉田書記長の講義を受け産別の素晴らしさと事前協議制度がどれだけ大事なことなのかを今回の講義を通じて深く考えさせられました。二日目の最後にはレクリエーションがあり、班対抗戦でオンブローゲームをやりました。そこではチームの団結力や親睦がより一層高まったと思います。

三日目最終日は第三講座、鈴木龍一副委員長による「組合強化とは、役員とは、組織運営はどうあるべきか」についての講義から始まりました。この講義を受け、組合員の意識向上と組合活動の活性化、これを重要視すれば組織拡大・強化にも繋がり組合員のスキルアップにも繋がるのではないかと私は思います。

それぞれの講義終了後には四班に分かれてグループ討論が設けられており、議題についてのまとめ、各地方の人との意見交換情報共有などをしました。そこで得たもの今後の参考にさせてもらうために持ち帰り、支部などに伝えていきたいと思います。

今回第56期中央労働講座に参加出来たことが自分のスキルアップにとっても繋がったと思います。初日に鈴木誠一委員長が書記長とはなにか。書記長とは「扇の要」だとおっしゃっておいりました。扇の要とは扇子を支える一番大事な部分だと、組合も同じで書記長が崩れると組織が崩れると。私も支部の書記長としてまだまだ未熟なのでこの言葉に恥じないようこれからも精進していきたいと思います。

最後に中央執行委員の方々、第56期メンバーの方々三日間ほんとうにありがとうございました。